

鳥取市立末恒小学校

1 学校の概要

本校区は、北に日本海、東に湖山池があり、田畠や里山がある自然豊かな地域である一方、宅地開発が盛んに行われ、新興住宅地として的一面もある。現在は新興住宅地域に住む子どもが全校児童の8割以上を占め、地域内の家庭同士のつながりが弱まっている。



このような環境の中で、本校児童は、明るく元気で人懐っこく、休憩時間は外で元気よく遊ぶ姿が見られ、運動能力の優れた児童も多い。半面、生活習慣が徹底せず生活の自立ができにくいこと、きまりを守ろうとする規範意識が育ちにくいこと、達成感を感じることが少なく自己肯定感が低いこと、あいさつや発表などの自己表現が苦手なことなどの課題があり、これらの解決に向けて学習指導法や特別活動の研究を進め、さまざまな取り組みを行ってきた結果、状況はかなり改善されている。本年度は、学校経営の基本理念「『ふるさとを思い 志をもつ子』の育成」のもと、自分自身の生き方やありようをしっかりとと考え、学校教育目標を「挑み、関わり、究める『輝く末恒っ子』」として教育活動に取り組んできている。

また、本校の立地場所は日本海の海岸線まで直線距離で約300メートルと近く、海拔は校庭が7.3メートルで、地震による津波が発生した場合、校庭や校舎が浸水する可能性がある。このような現状をふまえ、今年度は、防災計画や避難訓練の実施方法の見直し、防災教育の年間指導計画の作成などを行い、災害時に子どもたちが自ら判断し、行動することで自分自身や仲間の生命を守ることができるよう取組みを進めてきた。

2 取組について

(1) 防災に関する学習

【平成25年度】

① 1年 生活科 「みんなのみかた ぼうさいマン」

- 地震、津波、火事のときにとるべき行動について学習することを知る。
- 紙芝居「みんなのみかた ぼうさいマン」を視聴する。
- 災害時にとるべき行動の確認をする。

② 2年 学級活動 「安全に登校や下校をしよう！」

- これまで安全に登校したり、下校したりできたか振り返る。
- ワークシート（場面絵）の危険な場所を考え理由を考えて書く。

○未恒小学校の子どもたちは登下校でのケガが多いことなど、今までのけがの事例を養護教諭から聞く。

○登下校するときに気をつけたいことを考える。

③ 4年 理科 「もののあたたまり方」

○もののあたたまり方の学習を想起する。

○部屋の中で火事が起り、有毒な煙が出ている時、どのような格好で逃げたら良いか考える。

④ 6年 学級活動 「津波から安全に避難しよう」

○ビデオ「津波から逃げる」を見て津波から逃げる方法を考える。

○津波クイズをして、津波のことを知る。

○町区別に分かれて、避難方法や避難場所について考える。(保護者も入って)

【平成26年度】12月10日(水)実践的防災教育総合支援事業実践発表会

① 1年 生活科 「ひなんリュックに何入れる?」

○避難所の様子の写真を見て、避難をしたとき、一人一人がどんなものを持っていると便利かを考えることを知る。

○避難する時に「避難リュック」を持つとよいことを知り、中の物について考える。

○自分なら、ほかにどんな物を入れるか、グループで話合う。

② 2年 学級活動 「地しんがきた!」

○大きな地震の災害について学習することを知る。

○様々な場所で地震が起つたらどのような状況になるか想像し、地震が起きたときどのような危険があるか、どのように身を守ればよいか考える。

○学校で地震にあったら、どこが危ないか考え、発表する。

○絵を見ながら、家にいるときや外にいるときに地震が起きたらどんなところが危ないかを考え、危ないと思うところに丸をつける。

○怪我をしないために、自分だったらどうするか考える。

③ 3年 学級活動 「ねている部屋は大じょうぶ?」

○地震の揺れによる室内の様子の画像や映像を見て、大規模地震が起きたときを想起する。

○自分が毎日寝ている部屋の危険だと思うものを発表する。

○自分が寝ている部屋の様子が分かるように、家具カードを貼った立体を置いたり、絵を書き加えたりして再現をする。

○危険な物とどのような危険かを具体的に挙げていき、部屋の中の危険を減らしたり、なくしたりするためにどうしたらよいか、考える。

④ 4年 学級活動 「津波から安全に逃げる」

○家にいて津波が来たらどうするか考える。

○DVD「津波から逃げる」とアニメを見て、津波の被害について知る。

- ビデオの小学校の子どもたちはどうして安全に避難することができたのか考える。
- 毎日の生活の中で自分が考えて行動することは何かを考える。

⑤ 5年 学級活動 防災ゲーム「クロスロード」

- 災害時の「避難所」の写真を見て、大規模災害時の避難所の様子について考える。
- 「避難所」の看板の写真を見て、未恒小学校も避難所に指定されていることを知る。
- 防災ゲームを行う。意見交換を通して自分ならどうするかを考える。

⑥ 6年 学級活動 「避難所生活を考えよう」

- 長野県北部地震の様子を振り返り、大規模地震の時の生活を想起する。
- 避難所に行かなければならないのはどんな場合があるか考える。
- グループごとに避難所での生活を考える。
- 避難所生活に備えて、今日からできることを考える。

【 学習後の感想（6年）】

- この前あった長野県の地震の新聞記事を見ました。ぼくはそれを見て、こんな大きな地震だったのにぎせい者が〇ということにびっくりしました。長野県の人たちは協力し合ったんだなと思いました。質問の時間に「遊ぶ時について」考えました。あとで防災アドバイザーの横山先生にアドバイスをいただきましたと「遊ぶひまがない。」とおっしゃっていました。確かにそうだなあと思いました。
- 避難所での生活の準備ではお金で買えないものがあることが分かりました。それは、あいさつや行事への参加です。理由は、毎日のようにあいさつをしていたら会話ができる、はげまし合いなどができると思うからです。避難所での生活に詳しい防災アドバイザーの横山先生が、あいさつや行事への参加は、日ごろからしっかりやった方がいいと言われていたので、帰り道に地いきの方6人ぐらいにあいさつをして帰りました。もし、鳥取でも災害があつて避難所での生活になつたらいけないので、日ごろからあいさつ、行事への参加をしっかりとやりたいです。

(2) 実践的な避難訓練の取組

【平成25年度】

① 5月29日(水) 避難訓練(火災想定 業間休憩10:15～予告無し)

平成25年度は、児童の非常時の危機意識や自発的行動の意識を高め、自ら考えて行動できる力を育てるため、全ての訓練を休憩時



校庭への避難の様子

を行うこととした。第1回目は危機感・緊張感のない児童が大変多く、全体指導と学級指導で何のために訓練しているかを考えさせ、6月中に再度予告無しで訓練を実施した。なお、訓練の際、事前に近隣の福祉施設「白兎はまなす園」に連絡を入れることを確認した。

② 6月27日（木）避難訓練（火災想定 業間休憩10：15～ 予告無し）

黙って集まる児童も多くいたが、図書室で本を読んでいる児童の中に、なかなか避難しない子がいた。命は一つしかない。1回でこうありたい。良く聞く姿勢、心を続けてほしい。

③ 9月4日（水）保護者引き渡し訓練（参観日 臨時引き渡し訓練）

参観日当日、朝から大雨による、大雨・洪水警報が発令されていたが、本校区では大雨による影響はほとんどなく、登校も可能と判断し、予定通り参観日を実施する旨を昨年度より運用している緊急メールシステムを使って配信した。

しかし、大雨・洪水警報が昼になっても解除されず、道路の冠水等の被害も心配されたため、5校時の授業参観のあとの懇談会を中止し、児童・保護者を体育館に集めて、臨時の付き添い下校を実施する旨を緊急メールで流した。

5校時の公開学習は予定通り行い、学習後教務が、懇談会を中止し付き添い下校を行うことを放送した。担任は教室から体育館へ児童を引率し、保護者も体育館に集まった。移動は静かにでき、保護者も学校の説明を真剣に聞いて迅速に、安全に気をつけて下校できた。保護者が学校に迎えにくくことができない児童が30～40名程度いたが、近所の保護者と一緒に連れて帰ることを要請したところ、ほとんどの児童が相乗りで下校できた。また、校庭いっぱいに駐車していた約200台の保護者の自家用車は、職員の誘導と保護者の協力等によりスムーズに校地外へ出て帰宅できた。

今回の訓練でいくつかの課題が明らかになった。一つは、保護者への連絡が100パーセントでなかったことである。つまり、緊急メールを登録していない家庭や、登録していたが入ってこなかつたという家庭、保護者があった。もう一つは、引き渡しカード等を準備していなく、迎えのない家庭が、どこの家庭と相乗りして帰ったかを確実に把握していなかつたことである。今後、これらの課題も含め、より確実な訓練を行っていく必要がある。



町ごとに子どもと並ぶ保護者

④9月10日（火）避難訓練（地震、津波想定 業間休憩10：15～ 予告無し）

事前に「防災教育の手引き」等を活用して、学習や指導を行い、火災訓練と同様、予告無しで休憩時に行った。平成24年度は、津波到達に時間がかかり、想定外の高い津波が来るという想定で、近くの山（標高約70m）に避難する訓練を行ったため、平成25年度は、津波到達の時間が短く、一刻も早く高い場所へ避難する必要があるという想定で、校舎の3階へ避難した。校舎は北（第2校舎）と南（第1校舎）があるが、第1校舎は北側で海からの波が直接あたるため、被害が少ないと予想される南側の第2校舎3階へ避難した。（3階の4教室と廊下に全校児童が避難した）

緊急放送中、遊んでいたりしゃべっていたりして聞かない児童がかなりいた。また、第1校舎3階への避難中も私語があり、職員に注意される場面があった。避難時間は前回とほぼ同じだったが、放送を静かに聞き、次の行動を確認するという緊急時に最も重要なことができていないことは、大きな課題である。「静かに聞く」指導を継続して行う必要がある。

【平成26年度】

①5月12日（月）避難訓練（火災想定、昼休憩13：10～ 予告なし）

児童の非常時の危機管理や自発的行動の意識を高め、自ら考えて行動できる力を育てるために、予告なしで訓練を行った。6年担任は、消火活動にあたっているという想定のもと、担任がいない中で自ら考え行動する場面を設定したが、6年担任の指示がない中で、速やかに人数報告をすることができなかった。平素から自ら考えて行動する習慣を身につけるようにしたい。

②8月20日（水）地域との防災合同研修会（19：00～21：00）

学校が避難所になった時を想定して、地域の自主防災会の担当者とHUG（避難所運営ゲーム）をグループで体験した。教職員も4名参加した。さまざまな場面設定の中で、避難所の運営について考えることができた。

④9月9日（火）避難訓練（地震想定、中間休憩10：30～ 予告あり）

地震を想定した避難訓練を行うことを事前に知らせておき、1分間避難訓練を通して休憩時に自分の身の安全をどのように確保するかについて考える習慣づけをした。

- ・安全の確保
- ・放送を聞いての行動

⑤9月10日（水）避難訓練（地震・津波想定、授業中10：00～ 予告なし）

鳥取市の防災訓練に合わせて、地震・津波想定での避難訓練を行った。津波到達の時間が短く、一刻も早く高い場所へ避難する必要があるという想定のもと、被害がより少ないと思われる第1校舎の3階に避難した。



⑥ 1月29日（木）避難訓練（火災想定、昼休憩13：10～予告なし）予定

今までの避難訓練では非常階段を使って避難したことがなかったので、第1校舎の非常階段からの避難を計画した。火災想定の放送をよく聞いて、最も安全な避難経路を自分で選択することができるようにならねたい。

（3）学校の体制整備

見通しを持って防災教育を実践するために年間指導計画を見直した。また、災害時における学校と保護者との連携を図るために、保護者引き渡し訓練を行った。学校内だけの訓練では児童の安全を守ることはできない。今後は、保護者・地域との連携した体制づくりを進めていきたい。

（4）学校防災教育アドバイザー等の活用

12月に行われた湖東中校区防災教育公開学習に臨むために、防災教育アドバイザーの横山ひとみ先生に、指導案検討会で指導助言をいただいた。多くの実践事例とともに専門的な助言をいただき、より効果的な学習を行うことができた。

3 成果と課題

<成果>

- 年間指導計画の作成により、各教科における防災教育の見通しを持つことができた。
- 防災に関する学習により、児童生徒が防災に関する具体的な知識や実践的な技能を身に付けることができた。また、防災意識も高まった。
- 学校、地域住民（保護者も含む）、が連携して研修を行うことができた。防災について、それぞれの立場で考えることができた。
- 保護者引き渡し訓練を通して、学校と保護者との連携を図ることができた。

<課題>

- さまざまな場面において大規模地震が発生した場合の対応行動を想定しておくことが必要である。
 - ・学校管理下（授業時間、休憩時間）
 - ・遠足や社会見学など学校行事下
 - ・登下校時
- 大規模災害時における通学路にある避難場所の確認、家に帰るまでの対応を保護者と確認しておくことが必要である。